

石老山は相模湖の南岸にある標高 700mほどの山で静かな山とされていますが、最近では多くの方が訪れるところ。それでも満員の 9 時 35 分発のバスの出た直後の 9 時 45 分のバスに乗ったので、車内はがらがらでした。4 月上旬は相模湖畔や途中の顕鏡寺等、桜が見頃ですが、さすがに 4 月中旬では花見は無理。それでも途中には“しだれ桜”や“三つ葉つつじ”、“山吹”などが咲いて目を楽しませてくれました。登山口前の真紅や黄色の鮮やかな“チューリップ”は、強く印象に残りました。

途中の「顕鏡寺」の前後に屏風岩、仁王岩、大天狗岩、鏡岩等沢山の巨岩・奇岩が続く。この登り、案内書では家族向コースとなっているが結構厳しい。「融合平見晴台」で相模湖を見下ろしながら休憩。この地名ですが「おのずから心の動静も融合して凡ての煩いをなくす。山岳仏教の六根清浄の精神を生かす。古来人呼んでこの地を融合平という」とよくわからない説明があります。そこから頂上まで比較的楽な登りで 30 分。「石老山頂上」は杉の木に囲まれて一部富士山や大室山方面が望めるだけ。以前は（30 年ほど前）180 度の展望が望めたのに少々残念。

ここで思わぬ大収穫（！！）がありました。実は隣の石砂（イシザレ）山は、関東で唯一**ギフチョウ**が 4 月上旬（約 10 日間）の風ない晴天の日に見られる場所として有名。この時だけ石砂山はにぎわいます。石老山でも見たという人もいて少々期待もしていましたが、4 月中旬では無理かと思っていました。ところが現れたのです。少々くたびれた感じのギフチョウでしたが、間違いなくギフチョウ。約 30 秒間私達の周りを舞い地面に羽を休めました。あわてて写真を撮りましたがすぐに舞い上がり杉の木立の中に消えてしまいました。「ギフチョウ？それがどうした」といわれそうですが、めったに見られないものを見ただけでも幸せな気分です。ところでこのギフチョウ、あまり知られていないようで私達が「ギフチョウだ！」と騒いでいるのに、周りの大勢のハイカーは誰も見向きもしませんでした。

下りは急勾配が多く、歩きにくいコースでした。

今回は、案内が遅れたことと日程に無理があったため、参加者は 5 人と少な目でした。

皆さん健脚ぞろいで、予定より 1 時間半早く相模湖駅に到着。

駅前の食堂で打ち上げ。天候にも恵まれ、楽しい 1 日でした。（文責：川崎支部 川島）

【参加者：5 名】

東京化学材料支部 林 正巳 (42C)

厚木支部 奥野 恭正 (36C) 関根 範明 (38C)

横浜支部 植竹 裕 (44TM)

川崎支部 川島 克之 (38C)



融合平見晴台



ギフチョウ



石老山